

### 513) 桜草

小生はこう見えても結構花が好きで、よく花屋さんや苗木屋さんなどの店先を覗いて歩くのが大好きである。だから埼玉県北の川本町にトマトを買いに行くと、必ず帰りには農協の売店を覗いて歩く。珍しい花や山野草などがあると買って帰り、田舎の庭に植えているのである。あるとき深谷市にある花や植木の市場の売店で、花卉の表が白、裏が濃桃色という美しい桜草を見つけたので、これを買うことにしたのだが、車で家までたどり着く前に、花が痛んでしまうことも多いので、家に帰る前に写真を撮っておこうと思って、販売所の棚の上に乗せて、写真を撮ってカメラを納めてさあ行こうとすると、何故か此花が忽然と我が目前から消えてしまっている。アラ不思議、美しい花は幻だったのかと思いつつキョロキョロしていると、2～3歩前に行くご婦人が我が桜草を持って歩いているではないか。『なんたる無礼な』とこの御婦人に「その花は私が買うものなんですけど！」と言うと、「あらそう。あんまり綺麗な花だから、私も買おうと思って…」とマア、ご婦人はこのようにのたもうたのであります。イヤハヤ油断も隙もアリヤしない。しかし花は無事に取り戻して、カメラと桜草と、それにもう一つ、藤の花を持って歩いていると、今度は違うオバさんが、その植木をレジまで持って行ってあげましよう、ちょっと珍しい淡い紅色の藤の苗木を持って、歩き始めたのである。大丈夫かなと思ってそのオバさんの後をついて行くと、「ここにおきます」と言って、すみの方に藤の花を置いて、桜草のタグを外すと、レジを打ち込んで、無事に支払いをすませることができたのであります。これはレジのオバさんの親切だったのであります。きっとオバさんに盗られそうになった桜草を見ていたのでしょう。アア良かったと車に荷物を積み込んでレシートをよく見ると、何と何と、一つ打ち込まれていない花があるではないですか。「ウーンあのオバさん、さては俺に惚れてたんだな。」なんちゃって、ルンルン気分になったのであります。